

2011年3月期 期末 決算報告

2011年5月9日
経営企画室

1. 期末決算のポイント

1.1. 期末決算のトピックス

連結

▶ 連結経営成績に関する主な事項

[単位:百万円未満切捨て]

売上高 157億21百万円 (前年同期比 19.5%増)

- ◆ ソフト開発事業は、
公共・サービス分野は、宅配便関連の受注がやや鈍化した影響で、
35百万円の微増にとどまり、38億81百万円(前年同期比0.9%増)となった。
金融・保険分野および流通、その他の分野は、
アイオス、インフィニードの子会社化が貢献し、
23億63百万円上回り、86億30百万円(前年同期比37.7%増)となった。
- ◆ 組込み型開発事業は、
デジタルテレビが減少したものの、通信分野およびカーエレクトロニクス分野が
前年同期を上回り、30億94百万円(前年同期比7.2%増)となった。
- ◆ 商品・製品販売は、前年同期を下回り、1億15百万円(前年同期比23.8%減)となった。

▶ 連結財政状態に関する主な事項

[単位:百万円未満切捨て]

総資産 116億98百万円 (前期末比12億4百万円増)

自己資本比率 65.4% (前年度末 71.9%)

1. 期末決算のポイント

1.2. 通期の振り返り

単体

全般傾向

IT投資は引き合いが増加するも
案件決定までの期間が長期化
顧客側の慎重姿勢は依然変わらず

課題

ビジネスの絶対量確保

新サービスの拡販体制強化

新たなビジネス需要への対応

1. 期末決算のポイント

1.3. 通期の振り返り①

子会社



クレスコ・
イーソリューション

パートナー企業の発掘による受注増加
企業のIFRS対応が追い風



ワイヤレス
テクノロジー

製品販売は量産製品の展開および
受託開発案件の受注が課題



クレスコ・
コミュニケーションズ

沖縄関連事業、ネット監視事業の伸長が課題
SIおよびコンサルティング案件の受注に注力

1. 期末決算のポイント

1.3. 通期の振り返り②

子会社



クレスコ・
アイディー・システムズ

主力製品セキュリティロッカーの安定受注へ注力
今期3月30日で、会社清算へ



アイオス

大手ベンダー向け営業に成果
内製化推進、コスト削減による利益アップ
2010年12月に新事務所に移転



インフィニード

地場顧客の開拓が継続課題
クレスコ、アイオスとの営業連携による案件獲得

2. 財務経営成績 等

2.1. 損益計算書 [要約]

連結

[単位:百万円未満切捨て]

	2010年3月期 期末 〈実績〉	2011年3月期 期末 〈実績〉	前年 同期比	2011年3月期 通期 〈2010/11/5予想〉
売上高	13,151	15,721	119.5%	16,300
売上総利益	1,686 (12.8%)	2,453 (15.6%)	145.5%	2,500 (15.3%)
営業利益	272 (2.1%)	823 (5.2%)	302.6%	740 (4.5%)
経常利益	472 (3.6%)	1,051 (6.7%)	222.7%	930 (5.7%)
当期純利益	125 (1.0%)	613 (3.9%)	490.4%	500 (3.1%)
EPS 円/株	10.43	52.20	—	44.02

【注】 ()内の数字は各々の利益率を表します。

【注】 2010年4月に「アイオス」と「インフィニード」を子会社化し、連結対象が4社から6社に増えております。

【注】 通期の業績予想につきましては2010年11月5日に発表いたしました決算短信にて修正しております。

2. 財務経営成績 等

2.2. セグメント売上高の比較 連結

[単位:百万円未満切捨て]

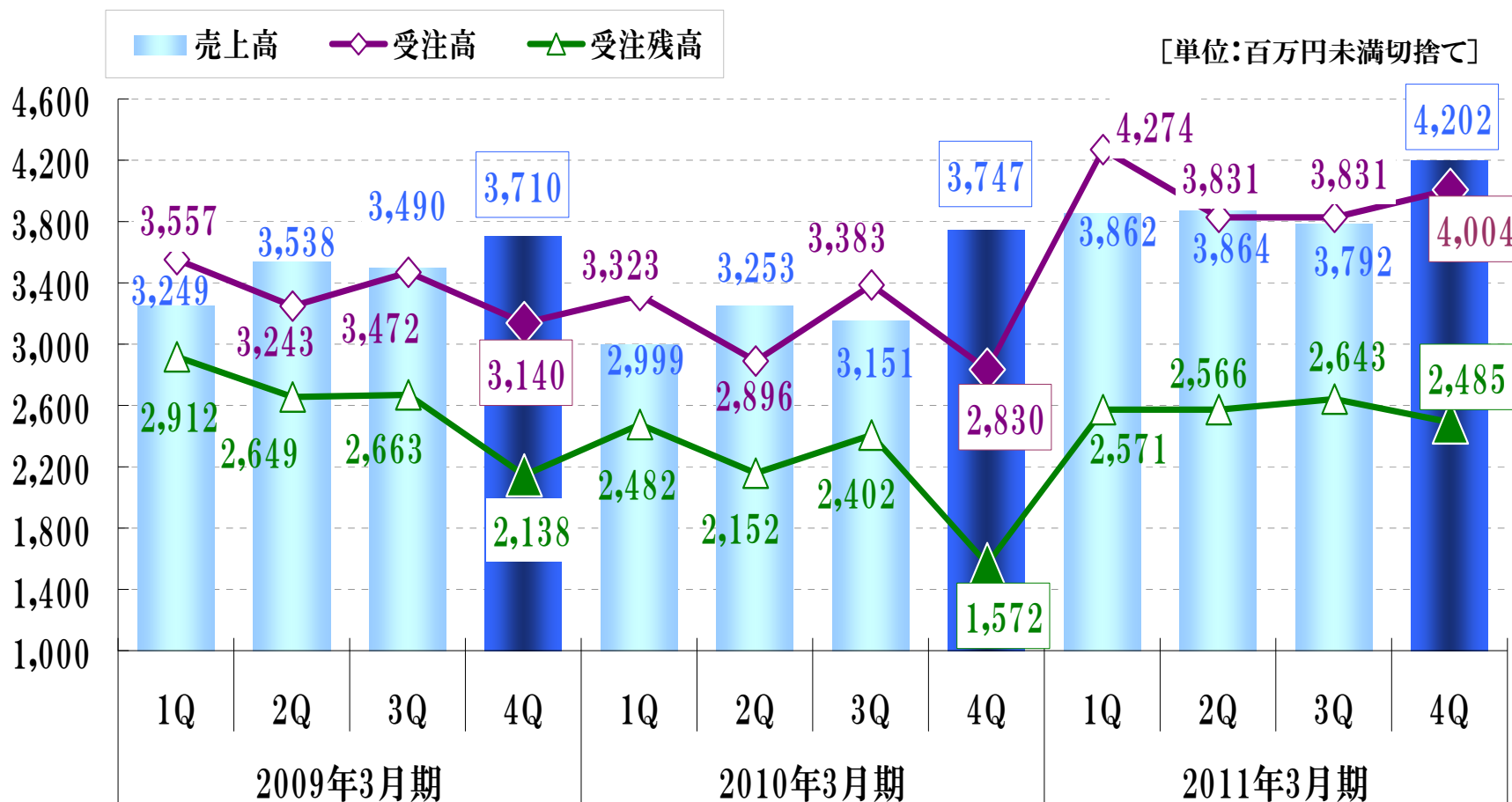
セグメント		2010年3月期 期末	2011年3月期 期末	増減	増減率
大区分	小区分				
ソフトウェア	金融関連	3,671	5,780	2,108	57.4%
	公共・サービス	3,846	3,881	35	0.9%
	流通・その他	2,595	2,850	255	9.8%
	計	10,112	12,511	2,398	23.7%
組込型 ソフトウェア	通信システム	896	966	69	7.8%
	カーエレクトロニクス	1,497	1,718	221	14.8%
	その他	493	409	▲84	-17.0%
	計	2,887	3,094	207	7.2%
商品・製品販売		151	115	▲35	-23.8%
全計		13,151	15,721	2,570	19.5%

[注] 2010年4月に「アイオス」と「インフィニード」を子会社化し、連結対象が4社から6社に増えております。

2. 財務経営成績 等

2.3. 売上高・受注高・受注残高の推移

連結



【注】 2010年4月に「アイオス」と「インフィニード」を子会社化し、連結対象が4社から6社に増えております。

2. 財務経営成績 等

2.4. 損益計算書 [要約]

単体

[単位:百万円未満切捨て]

	2010年3月期 期末 〈実績〉	2011年3月期 期末 〈実績〉	前年 同期比	2011年3月期 通期 〈2010/11/5予想〉
売上高	11,592	11,138	96.1%	11,600
売上総利益	1,482 (12.8%)	1,591 (14.3%)	107.4%	1,630 (14.1%)
営業利益	389 (3.4%)	634 (5.7%)	163.0%	620 (5.3%)
経常利益	622 (5.4%)	787 (7.1%)	126.5%	780 (6.7%)
当期純利益	89 (0.8%)	404 (3.6%)	453.9%	430 (3.7%)

【注】 ()内の数字は各々の利益率を表します。

【注】 通期の業績予想につきましては2010年11月5日に発表いたしました決算短信にて修正しております。

2. 財務経営成績 等

2.5. 損益計算書 [要約]①

子会社

[単位:百万円未満切捨て]

	 クレスコ・イー・ソリューション [資本金: 200]		 ワイヤレステクノロジー [資本金: 50]		 クレスコ・コミュニケーションズ [資本金: 50]	
	2010年3月期 期末	2011年3月期 期末	2010年3月期 期末	2011年3月期 期末	2010年3月期 期末	2011年3月期 期末
売上高	1,266	1,371	150	135	127	207
売上総利益	129	222	29	37	62	64
営業利益	▲50	81	4	18	6	14
経常利益	▲49	93	5	18	4	14
当期純利益	▲35	49	3	10	3	9
持分比率	100.0%	100.0%	87.5%	87.5%	86.0%	86.0%

2.5. 損益計算書 [要約] ②

子会社

[単位:百万円未満切捨て]

	 クレスコ・アイディー・システムズ [資本金: 100]		 アイオス [資本金: 313]		 インフィニード [資本金: 17]	
	2010年3月期 期末	2011年3月期 期末	2010年3月期 期末	2011年3月 期 期末	2010年3月期 期末	2011年3月期 期末
売上高	40	33	2,915	2,738	186	142
売上総利益	▲ 18	5	409	512	19	9
営業利益	▲ 78	▲ 50	▲ 17	133	0	▲ 6
経常利益	▲ 79	▲ 52	10	155	5	1
当期純利益	▲ 89	152	2	108	3	▲ 2
持分比率	96.0%	96.0%	—	100.0%	—	100.0%

【注】 2010年4月に「アイオス」と「インフィニード」を子会社化し、連結対象が4社から6社に増えております。

3.1. 基本方針

顧客創造
顧客創造

3.2. 重点施策

▶ 営業部門の拡充

営業専任者の増員、営業統括部の設置

▶ グループ本部の設置

グループ戦略、営業活動・広報活動支援、コンプライアンス強化

▶ 擬似カンパニー制の強化

営業利益ベースでの業績評価、部門裁量の拡大

▶ 政策予算の確保

人材採用、開発支援、グループ活動強化等

▶ モバイルへの取組み

スマートデバイス等、新メディアへの積極対応

3. ビジョンと戦略

3.3. 今後の事業展開、株主還元方針など①

- 1 2010年度は「クレスコ大改革」を断行し、新たに2つの企業(株)アイオス、(株)インフィニード)を子会社化するなど、「利益の出る体質、体制」への刷新を推進してまいりました。また、不採算プロジェクトの撲滅、コスト削減、稼働率向上を通して、更なる収益性の改善に取り組んでまいりました。
- 2 当社企業グループは現在、子会社6社、関連会社2社の体制となり、営業拠点も札幌、東京、大阪、博多、沖縄と全国規模に拡大し、「メインITソリューション・パートナー」として、顧客に密着した価値提供型のビジネスを展開しております。今後も当社企業グループ一丸となった「ワンストップ・ソリューション」の提供を通して、より需要が見込める顧客や産業分野に対する積極的なアプローチを行ってまいります。

3. ビジョンと戦略

3.3. 今後の事業展開、株主還元方針など②

- 3 IT投資そのものは、多大なコストと時間を要する「新規開発」は減少し、クラウドサービスの活用（「所有」から「利用」）がトレンドとなっておりますが、震災後、マーケットニーズには、新たな変化がみられます。当社企業グループといたしましてはこの変化を追い風とすべく、2011年度は「顧客創造」をテーマに、新たなサービスモデルの構築と戦略的・網羅的な営業活動を展開してまいります。

- 4 株主還元方針といたしましては、何よりも業績に裏付けられた適正な利益配当に重点をおいており、特段の株主優待は行っておりません。なお、配当に関しましては、当社の経常利益を基に特別損益を零とした場合に算出される当期純利益の40%相当額を継続的に実現することを目指してまいります。

- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業績や結果と大きく乖離するなど、本資料の内容とが異なる可能性もございます。予めご了承ください。